

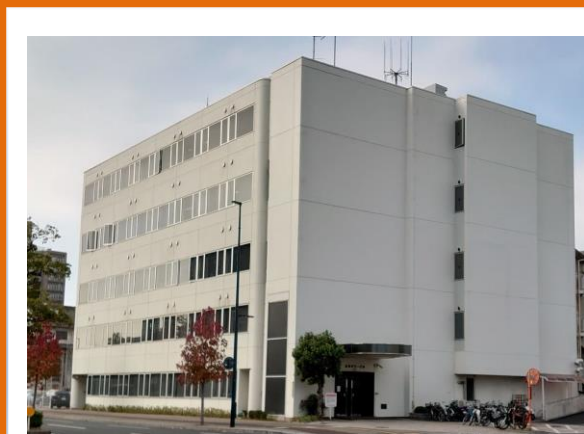
広島労働局長が「ベストプラクティス企業」 広電建設株式会社を訪問しました

広島労働局長 阿部 充 は、11月24日（木）、「過重労働解消キャンペーン」の一環として、地域の中で長時間労働の削減に向けて積極的に取り組む「ベストプラクティス企業」への職場訪問を実施し、当該企業の取組内容について、代表者や従業員と意見交換しました。

訪問事業場 プロフィール

広電建設株式会社本社

所在地 広島市中区東千田町
創業 1971年
従業員数 75名
事業概要 建設・不動産業



<働き方改革の目標>

- ① 2024年4月からの時間外労働の上限規制の適用に向けて計画的に対応する。
- ② 将来を担う若年労働者に魅力ある職場として受け入れられる職場環境を整備する。

代表者との懇談の様子



懇談では広電建設株式会社の瀬崎社長から、

☆建設業は2024年4月から時間外労働の上限規制が適用されるため、これにいち早く対応するために計画的に時間外労働の短縮に取り組んでいます。

☆建設業が発展していくためには『働き方改革』に取り組み、若い人にも魅力ある職場とすることが必要です。

☆建設業特有の工期等の問題はありますが、1人1人が安心して働ける職場を整備し、さらなる職場環境の向上を目指して頑張りたいと考えています。

と説明がありました。

取組の具体的な内容は？

☆時間外労働の削減

- 年間の時間外労働について
2020年は480時間、
2021年は456時間、
2022年は420時間、
2023年は384時間、
2024年は360時間以下、とする計画を立て、現在までのところ、計画目標を達成している。

☆長時間の残業を防止するための取組

- ネット化によるスケジュール管理、書類整理の効率化、業務の簡素化の推進
- 各人のスケジュール共有化により、会議や打ち合わせの効率化
- 勤怠管理システムの導入による労働時間管理のリアルタイム化

☆年次有給休暇の取得率向上

- 半日単位での年次有給休暇取制度の導入
- 年次有給休暇取得日数の少ない社員への注意喚起
- ネット化によるスケジュール管理、書類整理の効率化、業務の簡素化の推進により休みやすい環境の整備

☆育児と仕事の両立

- 安心して育児休業から復帰できるよう事業場内保育所の活用
- 現在、1名のみ現場管理にも女性を採用したい

☆労働時間短縮を進めるに当たり直面している問題

- 民間工事においては発注者の労働時間管理への理解を得にくく、できるだけ早い引き渡しを求められ、時間外労働が発生しがち。
- 大規模工事は共同企業体により施工するが、自社が代表でない場合は代表者の管理に従うこととなり、時間外・休日労働も代表者の基準で運用され、長時間労働が発生しがち。
- 年度末に工事が集中して発注されると、どうしても時間外労働により対応せざるを得なくなるため、公共工事等は発注の平準化をお願いしたい。
- 小規模の事業者は賃金体系が日給月給であるため、週休2日制に対応しづらいため、業界の賃金体系の改革が必要ではないか。

取組の成果は？

☆常用労働者の1か月平均残業時間（2021年）

平均1か月18.75時間に（2020年22.8時間）

☆年次有給休暇の平均日数、取得率（2021年）

平均取得日数11.1日 取得率65%（2018年9.3日、55%）
半日年休制度導入前より取得率10ポイント以上向上

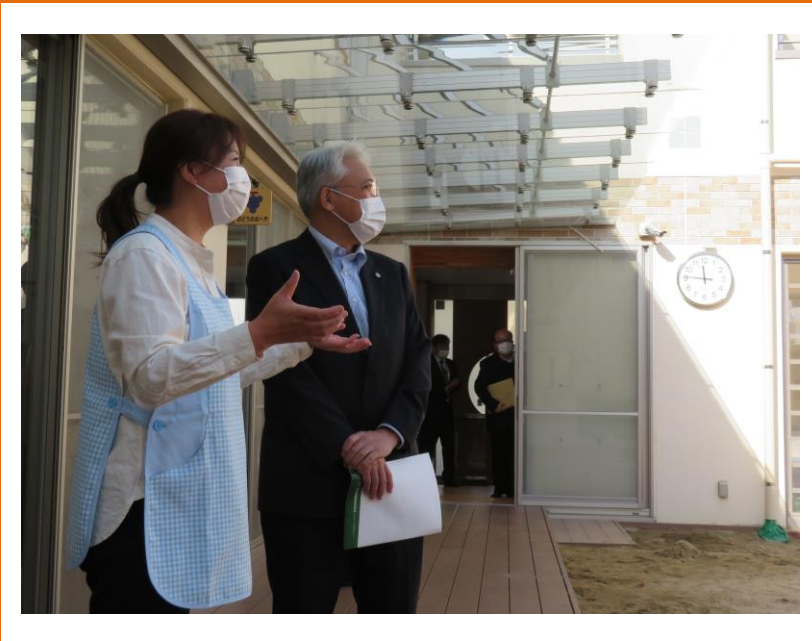
従業員との意見交換と職場見学



従業員の皆さんからは

- ☆ 半日単位の年次有給休暇は取得しやすく助かる。
- ☆ 建設業でも労働時間短縮のために意識を変える時期が来ている。
- ☆ 工事発注を年間で平準化してもらってもっと労働時間の短縮が進むのではないかと。
- ☆ 届出書類等の作成範囲が多い。

といった意見がありました。



意見交換後、近隣に所在する「ひろでんまめっこ保育園」を案内いただき園児の元気な姿を見学させていただきました。

園長からは、ひろでんグループで設けている保育園ですので、グループ従業員に最大限、活用して欲しいとの説明がありました。